

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 1 年 9 月 6 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100611		
法人名	有限会社 慈恵コーポレーション		
事業所名	グループホーム 憩		
所在地	広島市南区翠町4丁目7-38 (電話) 082-569-5058		
自己評価作成日	2019/8/15	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Jizvsvocd=3490100611-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東4丁目11番13号
訪問調査日	令和 元年 9 月 6 日 (金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

職員全員が運営理念、介護福祉倫理基準を毎朝復唱することにより、理念を認識し、意思の統一を図り、1日の業務にあたっています。認知症研修を行い、職員の認知症に対する理解を深める努力をしています。また、できるだけ個別対応できるように、個々人の要望の把握に努めています。運営推進会議や面会を通して、ご家族さんと交流を図り、気軽に相談できる環境作りに努めています。月に2回ほど、ボランティアの方に来ていただき、音楽療法に取り組んでいます。レクレーションでは季節を感じることでできる行事を企画し楽しんでいただくことで、入居者様の生活意欲の維持、向上に努めています。体調の悪い方、食事の入らない方には、施設内でナースが点滴を施行するなど、医療面にも力を入れています。又、歯科、皮膚科、耳鼻咽喉科の先生に往診に来ていただいております。訪問美容で、髪の毛をカットしてもらった後、薄化粧をし、写真を撮って本人さんへお渡ししております。水分補給が難しい方には寒天ゼリーを作って提供しています。毎食後、口腔ケアを行っています。お金を預かり、欲しいものや必要なものをいつでも買える体制を整えています。居室にはご家族さんの写真や仏壇など、好きなものを置いていただき、思い出を大切にしたい環境を心がけています。イベント時にはご家族さんへ連絡し、できるだけ一緒に参加できないか、お伺いしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム憩は交通の便も良く閑静な住宅街に位置しています。建物は新しくグループホームに適した設備で清潔に運営されています。憩の理念（ゆっくり、いっしょに、笑顔で）を毎朝申し送りの際、唱和し、日々の業務で事業所で目指すものを職員全員で意思統一を図り、共有し、利用者一人ひとりの思いを把握し、一緒に過ごしながら安心した暮らしになるよう支えあう関係に取り組んでいます。家族は運営推進会議に出席され、交流し職員と家族の信頼関係を築き利用者と家族の真意を受け止め、ここに来て良かったと思えるホームにしたいと職員は工夫や配慮、研究がみられ、2人の看護師により毎日の健康管理がされ、利用者に対してきめ細かなフォローがされているグループホームです。

グループホーム 憩

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送りの際、理念を復唱することでスタッフ全員が理念を認識し1日の業務にあたっています。	理念はリビングルームの中央に(ゆっくり、いっしょに、笑顔で)を掲げてあり、毎朝申し送り時に、唱和し業務に入る前に理念を認識し、実践につなげるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議を定期的に行い、町内会長、地域包括センターの方などが参加し意見交換を行っています。町内会のお祭り・盆踊りに参加(予定)しています。町内会への参加もしています。	町内会に加入し、町内の夏祭りに参加し、秋にはお神輿が訪れ利用者は喜ばれている。毎月ボランティアの方の音楽療法でバイオリン演奏、合唱を取り入れて生活の意欲向上に繋がっている。子ども神楽の皆さんが神楽の演舞に来て利用者は楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通して認知症についての情報や知識を提供しています。また、家族会などを通して、気軽に相談できる体制を整えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族から頂いた意見を取り入れるようにしています。運営推進会議議事録をいつでも閲覧できるように玄関先に配置しています。	運営推進会議は2か月に1回、家族、町内会長、地域包括支援センター職員、施設代表、管理者の出席で開催されている。事業所の状況、行事予定を報告し出席者からの意見を運営に活かしている。家族の出席で家族同士の語らいの場にもなっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	役所へは、書類の書き方など、問い合わせたり、打ち合わせに訪問している。2か月に1回、運営推進会議を行っている。	市役所へは書類提出や、わからない事は問い合わせている。疑問点は常に連絡をとり、出向いたり、電話で指導を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内の身体拘束排除マニュアルに沿ったケアを行っています。また社内研修を実施し、理解を深めています。	身体拘束委員会を3か月に1回開き、身体拘束について検討がされ、職員の一人ひとりの意見を聞き、全員で理解を深めている。身体拘束排除マニュアルを作成し、社内研修を行い拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内の虐待防止マニュアルに沿ったケアを行っています。社内研修にて学び、理解を深めています。また、入浴時や更衣時に確認しています。		

グループホーム 憩

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	地域権利擁護事業、成年後見制度についての社内研修を行っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には書面を用いて説明し、十分に納得して頂き同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時、ご家族にスタッフから声をかけ、ご家族の声に耳を傾けるように努め、意見・要望を業務に反映させています。また、ご意見箱を玄関先に設置しています。	家族の面会は多く、面会時には意見や要望を聞き、なんでも言い易い関係作りと迅速な対応が出来るようにし、親しく話せる信頼関係が築かれている。情報は全員で話し合い、日々の運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議にて、意見や提案、疑問点や不安なことを、管理者、看護師職員含めて話し合いを行い、業務に反映させています。また、毎朝のミーティングでも改善すべき課題に関して話し合いを行っています。	月1回の全員ミーティング、申し送りの時の提案、気付きを検討し、話し合わせ、施設代表、管理者と共に自由に発言でき、業務が笑顔で出来るように努め、それが解決に繋がっている。開設以来職員の成長が見られ、相手の立場になって物事が見られるようになっている。笑顔に生き甲斐を持つ就労です。休憩時間に家に帰って気分転換ができ、休日出勤の時、子供を連れてきたり、働きやすい職場になって	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	なるべく職員の希望に応じたシフトの作成に努めています。勤務態度や個々の努力に応じて、賞与を支給しています。また、スキルアップのための研修へ参加できるよう休暇の調整を行っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で月1回研修会を行っています。また、外部の勉強会・研修に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他法人で行われる研修会などには職員が積極的に参加しています。		

グループホーム 憩

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	申し込み時に施設見学を勧めています。また、入居して初期は特に、信頼関係を築くため、職員からの声掛けを積極的に行うように配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申し込み時に施設見学を勧めています。見学時・契約時には不安・要望などを傾聴して解決できるよう努めています。また、特に入居初期には面会をお願いしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族の要望をまず聞き、必要に応じて他のサービス利用も含めた施設計画書の作成に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できることはして頂きながら、その方に合った個別支援的な援助を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設内外で行う行事にご家族をお誘いしています。また、通院介助などで協力を求めたり、電話でご家族とコミュニケーションを取ったりして、家族の絆を大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族や馴染みの方などの面会を自由に行っています。電話の取次ぎも自由に行っています。	家族や友人の方の面会があり、何時でも気軽に来てもらえるよう、配慮している。馴染みの美容院に行かれたり、自宅に帰られたり、電話の取次ぎをしている。これまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	合同レクリエーションの実施や職員が間に入り、きっかけを作り、楽しい雰囲気作りに努めています。また、入居者様主体のレクリエーションを企画、実施している。ご自分でできないことをスタッフや、他の入居者様が手伝うなど、支えあって生活しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	病院に入院した場合も面会、お見舞いをしています。また、退去後も相談に乗ったり、助言するなど、他介護保険サービス等へ結びつける援助を行っています。		

グループホーム 憩

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別のケアプランで本人本位で検討しています。また、コミュニケーションが困難な場合には、ご家族の情報も得ながら本人の視点に立ち、ケアをしていくように心がけています。おやつを個別にあずかり、希望時にも出している。	日々の生活の中で利用者とコミュニケーションを取りながら、今、望まれている事を受け止める事に努めている。意思表示の困難な方は家族からの情報を得て利用者本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時には、ご家族に本人の生活歴を記入して頂くことで暮らし方の把握に努めています。また入居前の担当ケアマネージャーと連携を図り、これまでのサービス利用状況や生活パターンなどの情報収集を行なっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝夕の申し送り時に個別の状態を報告し全職員で情報を共有できるようにしています。また入居者様一人一人に担当スタッフを定め、そのスタッフが中心となり日々の様子観察や状態の把握を行なっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の様子観察や会話の中で、ご本人様の主訴をくみ取り必要に応じてスタッフ全員で話し合いを行なっています。また3ヶ月～6ヶ月毎に、ご本人、ご家族、ケアマネ、管理者で集まり担当者会議を行ない計画書の見直しを行なっています。	計画の見直しの際は、担当職員の意見や、日々の生活の中での職員の気付きを話し合い、利用者、家族、ケアマネ、管理者で見直し、3～6ヶ月毎に介護計画書を作成している。状況変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個別記録に残し、毎朝夕の申し送りの際に報告しています。職員間で連携を図るため変更点や改善点は伝達ノートを活用しています。ケアプラン更新月には、それらの情報を集約し計画書に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の方の要望に応じて、柔軟に対応できるように心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	月2回ほどボランティアによる音楽療法に取り組んでいます。また運営推進会議を通して町内会長や包括支援センターの方からの情報収集に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1回かかりつけ医を受診しています。体調の変化などあれば随時、かかりつけ医へ連絡や相談を行なっています。	内科のかかりつけ医に月1回の受診を受けている。皮膚科、耳鼻咽喉科、歯科の訪問診療を受けている。精神科、誤嚥性肺炎などctが必要な時は職員が付き添って支援している。体調の変化があれば、必要に応じて受診でき体制が出来ている。看護師による日々の体調管理が行われている。	

グループホーム 憩

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調面精神面の変化、皮膚状態など細かく報告や相談を行ない必要時受診して頂ける体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された当日、もしくは翌日に入院先に対し入院情報提供書を交付し情報提供を行なっています。入院中は、医療ワーカーやご家族と連絡を取り合い情報交換を行なっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取り期の過ごし方について、ご家族に説明や希望を伺うよう配慮しています。また、入居後ご家族に対し看取りに対するアンケートを実施し意思確認を行なっています。	重度化対応については入居時、事業所で出来る事、出来ない部分を説明し、家族の希望を聞き意思を確認している。入居されてからも、アンケートで意思を確認している。重度化した場合は、医師、看護師、職員で話し合い方針を決めて支援している。事業所では看取りはしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルに沿って対応できるよう体制を整えています。一人一人の持病や状態に合わせて対応できるよう看護師へ相談しています。また緊急時に連絡がスムーズに行なえるよう職員緊急連絡網があります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、防災訓練を行なっています。防災訓練後、気づきや反省、感想をスタッフ間で書類として共有しています。	年2回、昼間、夜間を想定し消防訓練を実施している。消防署立ち合いの下、通報、避難、初期消火、水消火器を使用行われている。去年は地震対応に自家発電機を設置し災害に備えている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報の取り扱いに注意し記録やケアプランなどは鍵付きロッカーに保管しています。プライバシー保護や倫理接遇の研修を行ない教育しています。声かけの際、敬意に欠けていないかスタッフ同士で注意しています。	個人情報の取り扱いには慎重に扱うよう徹底している。入浴、トイレ使用の際はドアをしめプライバシーに気を付けている。気になる言葉遣いがあった場合、全員で話し合い、尊厳とプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人様が気軽に発言できる関係づくりを行ない、意思決定できるよう助言や援助を行なっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各入居者様のペースや希望に合わせて支援しています。日々の会話の中で個々のニーズをくみ取るようにしています。		

グループホーム 憩

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望者にはスタッフが援助し化粧やマニキュアを行なっています。 また定期的に訪問美容を利用し希望に応じてカットやカラーリングを行なっています。その時に、薄化粧をしてもらい、記念写真を撮り、本人さんへお渡ししております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き、配膳準備や後片付けなどできることはして頂きながら一緒に行なっています。	食事は食材業者から購入し職員が湯煎をして提供している。年間の行事食は多く利用者の希望を聞き、焼き肉、お寿司、お好み焼き、たこ焼き、焼き芋、ホットケーキ、等を作り喜ばれている。家族との外食も支援している。片付け等利用者の出来る事は手伝われている。ミキサー食、刻み食、ソフト食等も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者一人一人に応じた食事形態を取り、食事・水分摂取量などを記録して、管理しています。水分補給が難しい方には毎日ゼリーを作って提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っています。口腔内や義歯に異常がある時には、訪問歯科の診察を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定期的にトイレ誘導を行っています。排泄表で排泄の有無を確認し、排泄パターンを把握できるようにしています。また、本人の訴えや表情などを観察し、トイレ誘導に努めています。	利用者個々の排泄表を記入して排泄パターンを把握し、トイレ誘導、声掛けを行い、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排せつ管理表に記入し排便管理を行なっています。水分補給や寒天ゼリーの提供を行なっても排便がない場合は医師や看護師の指示に従い対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人様の体調や希望を考慮し入浴介助を行なっています。 週2～3回は入浴して頂けるよう配慮しています。	体調に考慮し希望に応じて午前、午後と週2～3回入浴支援している。特殊浴槽もあり、シャワー浴、足浴、清拭等一人ひとりに応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人様の生活スタイルに合わせています。 また毎朝ベッドメイク、定期的なシーツ交換を行ない心地よく休んで頂けるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬一覧ファイルの中に現在内服している情報を保管しています。 内服薬など変更点があれば伝達ノートに記入し全職員への周知徹底に努めています。		

グループホーム 憩

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	塗り絵や計算プリント、編み物など一人一人の嗜好に合ったレクリエーションの提供を行なっています。また、入居者様に洗濯たたみや食器洗いなどできることをして頂くことで役割作りに努めています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	スタッフの数に制限がありますが、できる限り希望に添えるよう配慮しています。外出レクを企画し、ご家族様協力しながら外食や買い物、展覧会へ出かけています。	天候や体調の良い日には公園で景色を眺めたり、コンビニで買い物をしたり、花の展覧会に出かけたり、春には花見に行き外出支援している。家族との外出も支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つことで、ご本人様が安心できる場合には、ご家族了承のもと少額の小遣いを持っていただいています。買い物支援のため、ご家族よりお金を預かり必要なものや欲しいものがいつでも買えるよう体制を整えています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様やご家族の方の希望がある際はいつでも電話の取り次ぎを行なっています。時にご家族へ宛てた手紙をスタッフが支援し書いています。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合った装飾を行なっています。入居者様の好きな歌を流したり明るい雰囲気づくりに努めています。快適に過ごせるよう室内温度・湿度の管理を行なっています。	広いリビングでテーブルを囲み談話する方、テレビ体操をする方、思い思いに過ごす場となっている。利用者と一緒に作られた季節を感じられる作品が壁に飾られている。ベランダには花や野菜がその時々のもが植えられ収穫も楽しみにされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにソファを置き自由に使うできるようにしています。また行事などの写真が自由に見られるようアルバムを設置しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が自宅で使用していたものを持参いただき、できるだけ以前の生活に近づけるようにしています。居室にご家族の写真や仏壇などを置き、思い出を大切にした環境心がけています。	利用者が自宅で使われていた馴染みの物、家族写真、ぬいぐるみ等持ち込まれ季節の花が生けられて、安心して過ごせる居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリー化された環境により、車椅子の方でも自立した生活が送れるよう支援しています。廊下や壁、トイレなどに手すりを設置し安全に移動できるよう配慮しています。			

グループホーム 憩

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム 憩

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 憩

作成日 令和 1年 8月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域との付き合い	地域との付き合いを少しずつ進めていきたい	インフォーマルな資源を開拓し関係作りを進めていきたい	1年
2	49	日常的な外出支援	個々の状態や希望に合わせて買い物や外出支援を行う	各フロアスタッフ間で連携を図り、合同レクリエーション等の企画を行う	1年
3	18	安心感と信頼感の構築	BPSDの軽減	職員、利用者との関係性を見直し、職員一人一人の言動を再認識していく	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。